

2012年度 活動総括

1. 安心して子どもを産み育てられるまちづくりを目指す取り組み

＜全認可保育園の3・4・5才児クラスで主食無償提供（私立は同程度の補助）開始＞

2010年度の市長懇談会における田中市長の「完全給食（幼児クラス：3・4・5才児での主食提供）に向けて前向きに検討していきたい」との発言を受けて2011年度から始まった幼児クラスにおける有償での主食提供が、2012年度4月からは無償となりました。2011年度の有償による主食提供は、「主食代を徴収する父母会の負担が大きい」「有償だと父母会の同意が得られない」「返還金が発生し、その処理が膨大」という各父母会からの声があがり、大きな課題を残してのスタートとなりました。父母連では、これら各父母会からあがった切実な現状を市行政や市議会等へ働きかけました。その結果、主食提供の意義とその重要性を市長をはじめとする市行政や市議会が認めてくださり、2012年度からは、市内全ての公立認可保育園において主食が無償で提供され、私立認可保育園においては主食について公立の主食代と同程度の補助がでることとなりました。2012年度夏に行われた父母連アンケートにおいても、実に約96%の家庭から主食の無償提供を高く評価する回答が得られました。アンケートの自由記述にも「大変助かる」「草加市が子どもを大切にしようとする姿勢がうかがえる」といった声が数多く寄せられました。主食の無償提供を実施した市の英断を高く評価し、今後もこうした市のがんばりを引き続き応援していきましょう。

＜私立認可保育園2園が新たにスタート＞

2010年度より計画がすすめられてきた、私立認可保育園の新設計画を締めくくる新たな2園が2012年4月に開園しました。これらの新設によりおよそ180人の定員増となり、待機児のために保育園で実施されていた定員の弾力化と待機児童の一定程度の解消がなされました。私たち保護者としては大変喜ばしいことであり、待機児解消に向けた市のがんばりの成果だという思いを新たにしました。しかし待機児については、全国的に問題になりつつある都市部における保育ニーズの増大の影響から徐々に増え始め、2012年度末の待機児数は、前年度同期とほぼ同数の538人とほぼ横ばい、2013年度4月の待機児数に至っては、昨年同時期よりも200人以上も多い328人となっています。草加市においても待機児童問題が深刻な事態となり、待機となった保護者が署名運動を展開する等、行政によるさらなる早急な対策が待たれるところです。

また私立認可保育園で始まった多彩なサービスについては、これまでの公立保育園では行われなかったものが多く（最大夜8時までの延長保育、文具や布団の用意を園側で行う等）、保護者にはとても好評とのことです。公立では今までどおりの保育サービスが展開されており、初めて保育園に通園させる保護者には「同じ認可保育園なのに」という戸惑いもあるようです。一方、これまで公立保育園が培ってきた質の高い草加の保育実践は依然として保護者から高い評価を得ており、これからも維持・向上させていただけると、私たち保護者は大いに期待しています。今後は公立・私立の先生方が実践交流を通してそれぞれ刺激し合い、お互いの良い部分を共有し合い、高め合えるような関係づくりを期待しているところです。

2. わかりやすく、やりがいのある父母会・父母連づくりへの取り組み

＜父母連ニュースの発行＞

各保育園の保護者の皆さんに、父母連としての活動や各園での取り組みについてわかり易くお伝えするために、毎年事務局からは「父母連ニュース」を発行しています。

2012年度は、計6回発行(4/1・6/9・10/20・11/10・12/8・3/9)し、「入園・進級おめでとう号」／『第27回父母連総会報告／2012年草加市保育事業説明会の報告／2012父母連アンケート集計結果報告／第



48回草加母親大会報告／各園会長会報告／市長懇談会報告／子ども・子育て新システム学習会報告／第20回草加子育てのつどい報告／父母連役員告示、等々についてお伝えしてまいりました。よりわかりやすいニュース作りをめざし、2013年度も取り組んでいきたいと思ひます。ご意見等ございましたら、父母連メール info@soka-fuboren.org までお願いいたします。

＜会長会・代表者会の開催／各父母会分担体制により皆で支え合う父母連活動＞

2012年度は年3回の会長会（6・9・1月）そして年11回の代表者会（5・6・7・9・10・11・12・1・2・3・4月）を開催してきました。会長会では各園の状況や父母会運営についての情報交換などが行われました。代表者会では、①父母連事務局から各園への様々な事務伝達や報告 ②父母連活動方針や内容の検討 ③各園からの報告 ④保育情勢などに関する学習 などを行いました。各園の会長や代表者の皆さん、ご協力ありがとうございました。今年度の会議を通して出されましたご意見・反省点は、是非2013年度に生かしていきたいと思ひます。

また、専従のいない父母連活動を皆で支えて行こう、との確認のもと、2012年度も、2011年度に引き続き「父母連活動分担年間予定表」にもとづいて、父母連事務局の仕事を各父母会と分担し合いながら活動を行ってきました。お陰様で、事務局の負担も軽減されました。ご協力ありがとうございました。

＜父母連アンケート（9月）の実施や市長懇談会（11／2）への取り組み＞

父母連の活動は、各園の保護者の皆さん一人ひとりの声が集まって初めて可能となるものです。そのためにも各園の声を会長会や代表者会で直接情報交換し合うと共に、年に1回、約1700全世帯に父母連要求アンケートを行い、一人ひとりの声を市への要望書や保育改善運動に反映させるための大変重要な取り組みを行っています。その集計結果は父母連ニュースにてご報告したり、集計結果を各園にお配りしたりしておりますので、皆さんでご覧いただいたことと思ひます。

2012年度も父母会毎にアンケートのデータ入力をお願いしたり、父母連ホームページから引き出した書式にまとめたものを父母連メールにて送付していただいたりするなど、集計作業がより効率化でき、皆さんの意見をまとめることができました。担当していただきました皆さん、ご協力をありがとうございました。これらのアンケート結果や各父母会のご意見をもとに要望書などを作成し、2012年度は11／2に開催された「市長懇談会」での話し合いなどに反映させました。今後も情報交換をしながら、よりよい草加の保育を目指すべく運動を進めていきたいと思ひます。

＜父母連ホームページの充実＞

2006年度に立ち上げた父母連のホームページですが、2007年度以降は父母連の活動をより多くの方に知っていただくために「父母連の活動／草加市の保育園／これからの予定／おしらせ」などの内容の更新を行ってきました。これまで専従体制のない中でなかなか更新がままならない時期もありましたが、2012年度は新たにページをより見やすく、わかりやすいレイアウトへと変更し、定期的な各会議報告の更新、関連団体のイベントのお知らせ等を掲載しました。今後もより活用できるサイトにしていきたいと思ひます。またこれまで以上に父母連メール info@soka-fuboren.org を通して、皆さんのご意見・ご質問をキャッチし、父母連事務局としてできるだけ迅速に対応することができました。2013年度も、ホームページや父母連メールが情報発信の役割だけではなく、回答用紙のダウンロードや回答のメール送信、問い合わせ等の相互に情報交換できる役割も果たせるよう工夫していきます。ホームページやメールを通して、父母連活動が父母連会員一人ひとりにとって身近でわかりやすく、リアルタイムに声を反映できるよう工夫していきたいと思ひます。

3. 私たちが自身が学べる組織活動をつくる取り組み



＜新システム学習会（11／16）／第20回草加子育てのつどい（2／24）の開催＞

民主党政権が押し進めてきた「子ども・子育て新システム」に関連する三法案が2012年夏の国会で成立し、保育に関するシステムが戦後最大の変換期をむかえようとしています。これまでのシステムを根本から変えるこのシステムには課題点や問題点が数多く指摘されています。そこで父母連としてはこのシステムについてより多くの保護者や保育士とともに学習し、システムについて知ることが必要と考え、11/16に自治労連草加市職員労働組合保育部会との共催で「子ども・子育て新システムで保育園・幼稚園はどうなる」というテーマで学習会を開催しました。講師には全国保育団体連絡会事務局長の実方伸子さんをお迎えし、このシステムに変わると保育システムや手続きはどうなるのかを具体的に学ぶことができました。問題点も明らかとなり、今後私たちが草加市でどのような運動を展開すべきか、示唆に富んだお話を聞くことができました。当日は保護者・保育園職員を始めとする多くの参加者で会場では立ち見ができるほどの盛況となりました。

そして2011年度は、毎年埼玉県内で行われている「埼玉子育て・保育のつどい」の開催地が草加市であったため、例年行っている「草加子育てのつどい」が実施されませんでした。2012年度は第20回となる「草加子育てのつどい」を開催することができました。各保育園父母会からたくさんの参加者を募り、ご参加いただきました。おかげさまで大勢の参加者で楽しく有意義なイベントとなりました。

つどいの記念講演では、黛秋代先生（めだか保育園園長）をお招きし、「自信をもって子育て」をテーマにお話をいただき、子どもの本質について教えていただきました。また、「勉強していないのだから、育児に自信はなくて当然」「だからこそ、子育てをするために学びあうことが大切」と、周りにつながりあいながら親も学び成長していく必要があることも教えていただきました。

子ども向け企画では、劇団風の子の「なんかよーかい」を上演し、本物の演劇を間近で見られる貴重な機会を提供することができました。



＜各園父母会主催「CAPワークショップ」への補助＞

2012年度の「CAP（Child Assault Prevention 子どもへの暴力防止）ワークショップ」は各父母会企画で行い、父母連としては大人ワークショップの講師交通費と子どもワークショップ1回分の講師交通費を補助する形で応援してきました。2013年度も子どもを守る取り組みを支援することを目的に、各園への補助を行っていく予定です。

4. 共同の輪を広げる取り組み

＜「第7回育成保育保護者交流会」（10／27）の実施＞

草加市内には2010度4月から公立の早期療育施設として子育て支援センターが開所されましたが、未だに障がいのあるお子さんの数が多く、十分に利用できない面も見受けられるのが現状です。また両親共働きの家庭においては市の育成保育制度を利用することとなりますが、各園に在籍している育成保育のお子さんは数名です。そのような状況で、保護者同士の交流や情報交換の場として父母連が提供してきている「育成保育保護者交流会」が今年も開かれました。育成保育保護者のみなさんの交流の輪が着実に広がっています。参加者の「もっと就学に関する情報がほしい」との要望を受けて、2012年度は学童保育の会主催の「学童発達保障プロジェクト」から、障がいがありながら学童保育にお子さんを預けている保護者の方々にも参加いただき、学齢前から学齢期への切り替わりの時期、学校選択等で悩む保護者への確かなアドバイスをいただきました。今後も育成保育の保護者同士の情報交換・学習の場として交流会を開催し、情報を積極的に発信してきます。

＜民主教育をすすめる草加市民会議＞



主に小中学校・高校の教育の課題に取り組むゆるやかな集まりで、父母連も団体で加入しています。少人数学級の実現や市内の小中学校の給食の民営化問題、定時制高校廃止問題等私たち保育園保護者が数年後に当事者として直面する学校教育をめぐることがらを、学校の先生、学童保育の指導員や保護者、女性団体と日常的に意見交換やとりくみを作っています。父母連からは保育情勢を発信し、この会にあつまる市民との共有や一緒のとりくみをすすめています。

<草加母親大会>

「生命を生み出す母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます」を合言葉にした半世紀以上の長い歴史のある、母性を核にして暴力と貧困のない世の中作りに取り組む運動体に、草加父母連も加入しています。9月の草加母親大会（勤労福祉会館）では父母連も運営責任団体として会場準備等にかかわりました。

